都留文科大学 同窓会報

第30号会報

発　行　都留文科大学同窓会事務局
責任者　亀田孝夫
山梨県都留市田原3-8-1
☎ 0554-43-4341

― 被災地の復興を願って!! ―

都留文科大学同窓会会長
千野　文雄

私は、昨年４月に開催された全国理事会において、本学同窓会の第12代会長として推薦・承認をいただきました。今日の社会情勢や同窓会の目指す「大学の発展」と「会員相互の親睦」を考えた時、三万人にもならんとする本学の同窓会会長として、元よりその器ではありませんが、皆様方のご指導とご鞭撻をいただけますようお願い申し上げます。

さて、東北地方に未曾有の被害をもたらした東日本大震災から早いもので１年が経過しました。改めて、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたします。特に甚大な被害を受けた福島県や宮城県、そして岩手県は本学の同窓生が大変多いところです。昨年７月に開催された総会において、宮城県の鎌田前支部長より、亡くなられた同窓会員や支部が取り組まれている支援の状況が報告されるとともに、本会に対して支援の要請がされました。席上、全員の賛同をいただき、具体的内容については、本会に一任されました。本会内で協議を重ね、要請のあった支部には見舞金を送るとともに、12月には宮城県に大学の合唱団（「全国合唱コンクール大学部門」で３年連続金賞受賞）を派遣し、２カ所で「被災地支援クリスマスコンサート」を開催するとともに、被災者の皆様方と交流を深めました。私も関係者とともに同行いたしましたが、車内から眺める石巻市内の惨状には言葉もありませんでした。

コンサートの模様は、山日新聞に１面トップカラー刷りで大きく紹介され、全県下並びに各方面から高い評価をいただきましたが、学生達にとっても「歌声で被災者の方々を励ますことができた。」という実体験は大変貴重な機会となったようです。

ところで、今回の事業を行うにあたっては、宮城県支部と本部が連絡を密に行う必要がありましたが、立ち上げたばかりの電子メール（WebMail）が大いに役立ちました。これは、本学の加藤学長より会員が情報を共有したり交換したりするためのメーリングリスト導入のご提言をいただき、昨年８月に運用を開始したものです。東日本大震災では、情報伝達機能の確保とリアルタイムでの情報共有システムの構築の必要性が認識されましたが、この度の本学同窓会の電子メール立ち上げは、誠に時を得たものであり、今後は全国35都道府県支部相互並びに本部役員間で更に親密な関係を築いていくことが期待できます。今後は希望を募り、役員だけでなく一般会員の皆様方にも積極的に登録していただけるよう取り組んでいきたいと思います。

終りになりましたが、今後の厳しい社会情勢を考え、「学生が主人公の魅力あふれる大学」という本学法人化の目ざす理念に向かって、全国の同窓生諸氏の智恵と力を結集していきたいと思います。皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

都留文科大学同窓会役員

役職名	氏名	卒科
名誉会長	加藤祐三	
会長	千野文雄	S48英
副会長	桐井幸雄	S32初
	木浦憲一	S46初
	亀田孝夫	S51英
	原　喜雄	S53初
庶務会計	小幡哲明	S56国
	河端雄一	S63初
	藤本信夫	大学・課長補佐
事務局長	加藤一雄	S53初
事務局次長	浜欠亮吉	S39国
	外川正純	S46英
監事	淡野香百合	S39初
	相川洋子	S52英
北海道支部長	横山　勲	S40国
岩手支部長	堀籠智志	S53国
山形支部長	小川秀人	S55国
宮城支部長	千葉龍正	S51初
福島支部長	大竹豊紀	S39初

役職名	氏名	卒科
茨城支部長	宮内健治	S52国
群馬支部長	角田達夫	S49英
埼玉支部長	渡邉哲朗	S39初
千葉支部長	野田　純	S46国
東京支部長	松本多加志	S44初
神奈川支部長	板倉忠臣	S30初
山梨支部長	倉田由和	S38初
静岡支部長	清水　猶	S42国
岐阜支部長	山本吉朗	S40英
新潟支部長	池原栄一	S50初
富山支部長	澤井　隆	S48国
石川支部長	西田良治	S49国
福井支部長	小柳義夫	S48英
愛知支部長	神谷彰彦	S54初
三重支部長	中矢泰之	S43国
奈良支部長	瀧川佳市	S32初
大阪支部長	泉川芳夫	S49初
兵庫支部長	井上弘和	S40国
広島支部長	小谷桂司	S44初

役職名	氏名	卒科
鳥取支部長	藤田　修	S49国
島根支部長	木村晴男	S43初
岡山支部長	原田直樹	S45国
愛媛支部長	谷川忠孝	S42初
徳島支部長	小倉健司	S53英
高知支部長	清岡典代	S40国
長崎支部長	西田正人	S40初
熊本支部長	永田好文	S47初
宮崎支部長	荒巻孝行	S35初
鹿児島支部長	溝口通大	S39初
沖縄支部長	金城宏安	S33初
北海道理事	当銀誠博	S39初
兵庫県理事	赤穂榮一	S40英
山梨県理事	若林四郎	S31商
	田中克己	S52初
	吉田一郎	S45国
	鈴木　茂	S53初
	芦澤俊夫	S48初
	小林洋子	S49初

役職名	氏名	卒科
山梨県理事	一瀬英治	S46国
	朝比奈一正	S39初
	作地　眞	S46国
	奥脇隆樹	S45初
	赤松金次郎	S35商
	日野原晴男	S48国
顧問	奥秋順作	S31初
	志村武男	S31商
	後藤　敬	S34商
	佐藤唯一	S32初
	佐藤英雄	S38国
	輿石　東	S32初
	山縣永良	S39国
	勝俣武男	S41初
	永田清一	S46国
	小林孝次	S46英

※卒科＝卒業年度、学科

「新しい大学づくり」を目指して

都留文科大学学長
加藤　祐三

全国の同窓会、同窓生のみなさま、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

３月 11 日の大地震に始まる東日本大震災には同窓生の訃報が入り、甚大な被災に心を痛めています。被災情報と支援活動等については、スタートしたばかりの同窓会 WebMail をご覧ください。

同窓会の本部と全支部の間をメールで結ぶ Web-Mail は、昨年９月から使えるようになりました。これに情報を掲載すると、本部及び全支部に瞬時に伝わります。添付ファイルに会報や事業チラシも添付できるのは、通常のメール通信と同じです。「宮城支部会報」14 号が WebMail に添付されています。岩手県の近況については、10 月６日の同窓会支部からのメールに書かれています。

この WebMail を使う連絡網は、都留文科大学ホームページの同窓会・後援会欄から WebMail 欄に入り、届け出済みの ID を入力します。１支部あたり３件のアドレスを使うことができ、本部が割り当ててありますが、まだ本部へ届けを出していない支部があります。パソコンに慣れた若い同窓生を各支部で積極的に登用してください。

昨年８月６日の北海道支部総会と９月 23 日の岩手県支部総会に招かれ、大学の近況の一端をお伝えすることができました。岩手県支部総会後には、伊藤事務局長の案内により沿海部津波被災地の宮古市、山田町、大槌町、釜石市を訪れることができました。都留文科大学ホームページの学長ブログ欄に「岩手訪問記」（９月 29 日）と「宮古市田老町から」（10 月 21 日）を載せました。

本学が公立大学法人となって２年９か月が経過し、法人への移行に伴う諸問題の整理がほぼ終わりました。経営の責任者である西室陽一理事長と、教育研究の責任者である学長（副理事長）が支えあい有無相通じて、本格的に新しい体制を進めています。昨年春に「４つのプロジェクト」を立ち上げ、入試戦略、教職課程、カリキュラム改定、就職支援等５つの組織の強化を議論し、可能なものから実施に移しています。

少子化と空前の不況のなかで、学生確保競争が激化するなか、本学では受験者数が漸増し、夏のオープンキャンパスも好評で、近年、参加者が増加しています。受験傾向に変化が見られるため、調査を行い、対応を検討しています。また直近の“難易度ランキング”（『東洋経済』等）を見ても、東西の有名大学と伍して健闘しています。

教育の質の高さは、卒業論文（理系では卒業研究）を必修に課していることにも見られます。自分の課題を決め、資料を集め、体系的に叙述する卒業論文の作成は、卒業生に高い能力と大きな自信を与えています。

かつては卒業生の大半が教員になりましたが、今では教員になるのは卒業生の約２割であり、約８割は公務員や会社員等になります。残念ながら就職は、金融危機後の不況下で、他大学同様に苦戦しています。この状況に対処するため、今年度中には支援策を強化し、「キャリア支援センター」を立ち上げます。

課外活動にも各分野でめざましいものがあります。全日本合唱コンクール全国大会では合唱団が３年連続して金賞を獲得しました。それにとどまらず同窓会本部と宮城県支部が協力して被災地におけるクリスマスコンサートを成功させました。上掲の同窓会 WebMail や学長ブログ「本学合唱団が宮城県被災地で公演（予告）」（11 月 19 日）、「宮城県被災地支援クリスマスコンサート」（12 月 20 日）をご覧ください。

スポーツ部門では準公式野球部、個人空手、女子バレーボールも好成績を残しています。また卒業生の佐野夢加さん（文大勤務）がアジア大会の女子 400 メートルリレーで３位入賞、ロンドン・オリンピックを狙っています。

ご承知の通り、人口わずか３万余の「大学町」都留に約 3000 人の学生がいます。誰もが抱く「不思議」の１つですが、朝日新聞教育欄の「大学サバイバル」の１月 20 日（金曜）に取材記事が載っています。見出しは「地方の小都市　不利では？」に対して「安心できる大学町　生活費も安い」と応えています。各地から本学に集まる在校生たちは、先輩たちの支援をたいへん心強く思っています。教職員、学生ともども、この「小さな大学町」の誇りを胸に、いっそう努力を重ねる所存です。

同窓会との思い出

都留文科大学退官教員
初等教育学科教授
植村　憲治

同窓会とのご縁が深くなり始めたのは、10 年ほど前でした。教員採用数が全国的に減少し、採用試験合格者数が深刻な数字となった頃です。初等教育学科の後藤先生が中心となって教職研究会が発足しました。同窓会の理事会に合わせて OB 懇談会や模擬面接会を開始しました。OB の先生方の後輩に対する熱意あふれる指導に感激し、感謝致しました。各地の教育委員会を訪れて採用試験についての情報を入手する出張も多くありました。それらの時も地元の同窓会関係者から貴重な情報を頂きました。

私にとって一番思い出が多く、お世話になったのは東京支部の先生方です。当時八王子市立第三小学校校長の岩木先生からは八王子市内での学校ボランティアについて教えていただき、本学でのインターンシップ（学校）につながっていきました。

さらに８年前からは、東京都教員採用試験１次合格者を対象とした２次試験対策の模擬面接会を実施して頂いております。例年お盆の頃、八王子近辺で開催しておりますが、支部長の松本先生を中心に、若手の副校長までの先生方１０名ほどが休暇を取られたりして参加し、４時間近く熱心にご指導下さっています。東京支部が先鞭をつけたこの種の活動は、数年のうちにいくつかの支部に広がり、それぞれの方法で採用試験のご指導をされております。この会で先輩とのつながりが出来た若手が次々と活躍していくことが期待されます。支部同士での情報交換の場が設定されればよいなと思っております。

同窓会活動が大学にとって重要なことは大学として認識していても、大学の対応については内部から見ていても歯がゆいものがあります。採用試験対策会の講師は手弁当参加です。支部総会の通知を全会員に郵送する予算もありません。支部会員が大学、学生のためにお役に立ちたいという気持ちだけで奮闘している姿を見るにつけ、大学としての取り組みの改善の必要を感じます。

大学、同窓会がより緊密になることが本学の発展につながると考えております。

振り返ると

都留文科大学退官教員
国文学科教授
田中　実

都留文科大学に赴任したのは1980年、33歳になっていました。鷺只雄先生に拉致されたようなものでしたが、先生には感謝しています。それまで、五つの中学・高校の国語の非常勤講師をし、大学院を満期退学の後、私立の武蔵高等学校で初めて専任になりましたが、どこも２年しか勤めていなかった私が、定年までの32年間、ここで勤め上げることになったのは、この地との縁がいかに深かったかと言わざるを得ません。当時、大学の大きな建物は本館しかなく、音楽棟など木造の古い建物が私には何かゆかしく、初めて金子先生に大学を案内していただいた時、田舎の分教場みたいですねと言ったら、金子さんがわずかに不興な表情をされたことが思いだされます。しかし、私には古い建物、以前の図書館など、いまだに懐かしく好ましく感じられます。やがて、大学は本部棟が出来、音楽棟が出来、理科棟が出来、とその後も次々に新しい建物が建設され、今昔の感に襲われます。

私の研究室は５階、窓の下の学生たちが歩いている姿を見ていると、昔の学生たちが歩いている姿が二重三重に重なって見えてきます。私には、実在した過去も客観的現実もありません。「過去は制作される」し、思い起こされる主体の中の現実だけが「真実」です。それは哲学者大森荘蔵の言う通りと考え、最期の年は国文学講読で自然主義文学から私小説を主軸に考えるこれまでの文学史ではなく、人類が誕生する以前、まだ言語を持たなかった〈言語以前〉を歴史概念のコア（核）に据え、新たな近代文学史を講義してきました。都留に来てこの30年余の間に、私は専門分野である文学研究を一旦国語教育研究に乗り入れ、新たな文芸用語、テクニカルタームを生み出し、「読むこと」の原理を捉え直す事態に迫られました。2012年にはそれらのタームを定義した『術語集』を私の監修で出版しますが、都留に赴任しなかったら、私の学問はどうなっていたか、見当もつきません。

2010年私は大学時代の恩師を失いました。恩師への卒業論文を今頃書き上げようとして、いまだに書き続けているのが実状です。

同窓会の発展を

都留文科大学退官教員
国文学科教授
髙橋　宏幸

昭和56年４月に、８年間勤めた北海道教育大学（釧路校）から赴任して来ました。それから３１年間「国語学（古代語）」を担当してきました。ただ、共通教育も他学科用教職科目もほとんど担当できませんでしたので、在職期間の割には接する学生数が少なく、今となってみればそれも寂しいことですが、前任校で親御さんを、本学でお子さんをと、お二方と教室で接したことも数組あります。

赴任した年は、本部棟が完成し本格的に使用され始めた年で、新しい研究室（５２９）に樋渡先生と机を並べ、本学の発展とともに過ごしてきましたが、同窓で後輩の樋渡先生が先に旅立ってしまったのは残念の極みです。法人化後の発展にもっと尽力していただけたのにと思うこと切です。

赴任当時、都留市に３年間住みました。若く元気だったこともあり、年に10回もコンパをやったり学生の部屋で飲んだり麻雀をしたりなど、本学の特長でありました教員と学生が近い大学を地で行ってました。毎年頂くゼミ卒業生からの年賀状数はそのふれあいのバロメーターのようなもので、55歳を超える頃からの卒業生からはめっきり少なくなり、役職で忙しかったこともありますが、当時のゼミ生には申し訳なく思っています。

卒業生は大学の財産で、大学の評価を決めるのはすべて卒業生の御活躍によります。しかし卒業生の現状を知りたくても個人情報保護法のため、同窓会名簿も平成16年で冊子は絶えています。また同窓会の設立されていない県が12もあるとのことです。大学との連絡を密にするためにも、同じ釜の飯を食ったゼミやクラブなどを通しての繋がりの強さを生かして、とりあえず３人ほど集まり設立準備室を作って核となり、出前講座や高校訪問の教員を活用して集まるなど、同窓会支部へと発展してほしいと思います。同窓会を活発にして教育界から実業界へと卒業生のネットワークを拡げてほしいと願っています。

あっというまの１５年

都留文科大学退官教員
英文学科教授
窪田　憲子

私が本学に着任したのは、丁度50歳になった人生節目の年でした。前任校がセミマンモス大学でしたので、都留の小回りのきく規模が大変新鮮に感じられました。学長が教授会の司会をなさり、教員ひとりひとりの名前と顔を覚えているという事が新しい発見でした。教員が大学全体においても、個として存在しているというのは、とても貴重な場に思われました。

本学で専任として勤めたのは15年ですが、実はその20年以上前に、半年ほど、非常勤講師として英文学科の授業を受け持ったことがあります。当時、若造だった私は、ゼミの学生たちに対して、この本を来週までに読んでおくようにとか、あの本を新宿の本屋で買って予習しておくようにとか、今から考えると随分無茶な要求をしたものです。しかし、学生たちは、その無茶とも思える私の要求にきちんと応えて勉強してくれました。学ぶことに本当に貪欲で、私が都留で教えなくなった後も、学生たちは手紙をくれたり、遊びに来てくれたりしました。真摯な態度で勉強に向き合っていた彼らから、私自身が多くのことを学びましたし、教師人生の出発点で、そのような学生さんに都留で出会うことができたのは、本当に幸せだったと思います。

そして、その20数年後、今度は専任として本学に着任し、まじめに勉強する、という都留の伝統を保持している学生に再会できました。15年間、そのような学生たちに囲まれ、また学生思いの事務局の方々にも支えられ過ごすことができましたことを心から感謝しております。

活躍する同窓生

故郷（ふるさと）の文学を愛して

いしかわ観光特使
石川県観光スペシャルガイド
山　根　　公
（1966年国文学科卒業）

1　師の教えを胸に

1945（昭和20）年石川県白山市（旧松任市）生まれ。「全国唯一の公立教員養成大学　特に小学校教諭養成学科は本学のみ。富士山麓・修学に絶好の環境。」（『螢雪時代』旺文社・昭38.1）の都留文科大学国文学科に入学したのは63年４月。すぐに新聞局に入局し取材、執筆活動するかたわら民俗学や俳文学などに関心を示し、３年次から郷土史家中本恕堂・殿田良作両先生から加能俳諧史を学ぶ。同大学から金沢大学専攻科を経て、石川県立高校教員、県教育委員会生涯学習課で社会教育行政に携わり、2005年定年で退職。これまでに『国文学論考』９号に「加賀俳人桜井梅室覚え書」を、同22号に「加越能古俳書『鶴来酒』について」をそれぞれ発表したのをはじめ、論文、随筆、国語授業の技術など870編を研究紀要、雑誌、新聞などに矢継ぎ早に執筆し、声価を高めた。仕事と研究を両立させることができたのは、国文学者永井義憲先生の「地方に居ても出来る研究がある筈。いや、地方在住の人でなければ出来ない研究課題が必ずあるものですから、志を立てておやりになることをお勧めします。勿論おやりになっていることと存じますが・・。（昭48.12）」の御教示による。また、国文学者江本裕先生からは「都留にて非常勤をしていますが、実習にて御指導を受けた学生がいました。ご命名は都留在勤時より草創期の俊秀と承っていました。お元気で、一層の御活躍を祈念してやみません。（昭59.1）」という励ましの言葉を心に留めながら刻苦勉励した。碩学の両先生に感謝を申し上げたい。賞では、91年松任市社会教育市長表彰、96年石川県社会教育委員功労表彰、2003年松任市文化産業賞など。

現在、古美術商を営み10年９月から「開運！なんでも鑑定団」（テレビ東京）に協力。俳誌「風港」客員同人。白山市日本中国友好協会副理事長など。

2　故郷の文学を語り続けて

私の卒論は「加賀千代女の研究」。その後、「北陸の俳壇」をライフワークにしている。生活文化誌「サライ」（2008年２月号）の特集「江戸の隠居術」に、千代女が取り上げられ、私のインタビューを織りまぜながら編集された。この誌を読まれた本学卒業生より励ましや感想を頂戴した。2005年11月、韓国中央大学校孫順玉教授から講師を招聘され、日本言語文化学会（韓国・安城市）で「女流俳人千代女の生涯と俳句」と題して講演をし、好評を博した。一方、県文化振興のため、各地へ赴いて387回の講演活動をしている。それに、「北陸中日新聞」（「中日新聞」のホームページに掲載）に「千代女のうた」に続いて、12年１月５日から「千代女の謎」を連載して全国から反響が大きい。

昨年は、未曾有の東日本大震災で故郷の大切さをあらためて思い知らされた。私の住む石川県は、金沢を中心に能登と加賀の３つの地域を持ち、ラジオ・テレビ番組に52本出演させて戴いた。石川ならではの自然風土と多彩な文学の魅力をわかりやすい言葉で、家庭にお届けし、地域の人と人との絆を深めてきた。例えば、MROラジオ番組「げっきんワイド！おいねどいね」やNHKアナウンサー橋本菜穂子とのNHKラジオ番組「ここはふるさと旅するラジオ」、歌手川中美幸・水森かおりを育てた作曲家弦　哲也・歌手門倉有希との共演「旅は道づれ、歌が道づれ」（テレビ金沢）などである。

3　石川県観光スペシャルガイドのこと

石川県では、海外や３大都市圏からの観光客に「本物を巡るいしかわならではの旅」を提案し、2006年10月、より専門的なガイド「観光スペシャルガイド」（県内の歴史・文化・自然・食などに精通した34人・４団体）の県認定登録に選ばれ、10年には「いしかわ観光特使」に委嘱された。観光ガイドでは、特に大学ゼミの学生や中国（16回訪中）・台湾からの観光客に親しみを持ち、元気な故郷づくりに努力している。今では、ガイド集が山積みのようになったが、観光客との出会いは楽しい。

長年にわたる地域文化の振興に寄与した個人や団体に贈られる「県文化功労賞」や「石川テレビ賞」を私に授与しなければ、という有識者の声が年々歳々高まるなかを今回も私の旅は続いている。

4　谷村の町を訪れて

去年の夏、久しぶりに芭蕉も愛した馴染みの谷村の町をゆっくり歩いた。天神社下（上谷６丁目）の下宿の大川豊家は廃家だったが、三畳間の下宿部屋はそのまま残っていて吃驚した。その場で、学生生活のことをあれこれ思い浮かべ、しばし涙ぐむ。谷村の町は、私にとって第二の故郷である。

合唱団の歌声は被災地を包んだ

～山下中・東浜小クリスマスコンサート～

宮城県支部長
千葉　龍正

あの日の午後２時46分、大地震が突然襲い、夢中で子どもたちの安全を確保しているうちに学校は、避難所となった。仙台、宮城はいったいどうなっているのか一言も聞き漏らすまいぞとしたラジオから「荒浜付近から数百名の遺体が流れています」と甲高い忘我の声が飛び込んできた。

今、その地域に建っていた荒浜小学校が、わたしの勤めている学校に寄留している。この間、荒浜小を応援しようと全国からそして世界から驚くほどたくさんのかけがえのない心が寄せられた。

都留文科大学と同合唱団、そして同窓会本部とわたしたち宮城県支部との思いが響き合い、呼応して実現できたのが、今回の合唱団被災地支援コンサートであった。被災地への支援の形は、時間の経過と共に変わる。なら、大切な人やものを失った心の空白のようなものはどう満たされていくのか。「合唱団にぜひ来てもらおう」さんざんに考え抜いた後、そう閃いた同窓生がいた。そしてこのように実現の運びとなったのはこの上ない喜びであった。

12月17日は今季一番の寒さと降雪で都留一行は、１時間程度の遅れとなった。第１日目に訪れる山元町は福島県と接する海沿いの平坦な町で、あれから９ヶ月経って野草のせいで被災地ではないと紛らわれそうだが、一切合切を津波にさらわれてしまった地域である。開幕を遅らせることも考えたが、学生たちのてきぱきとした行動で午後１時30分の定時の開演。オープニングの「ほらね」に引き込まれる。『全日本合唱コンクールのステージ』では、美しく格調高い歌声に魅了された。団員たちは長旅の疲れも見せず、表情も豊かに内に力を秘めて歌う。会場となった山下中学校には、地元の年配の方々が多かった。どの歌にも惜しみない拍手が送られ、最後のアンコール曲の「ふるさと」は、来場者全員での調った合唱になった。身は震えずにはいられなかった。ある女性の感想発表。「震災後わたしは『ふるさと』はどうしても歌えなかった。でも、今日は力をもらって歌うことができた。うれしい。ありがとう」心と心がつながった。

17日の宿泊地は、蔵王少年自然の家。所長さんの特別なお計らいもありレセプションでは、みなさんと寛いだ交流ができ、時を忘れてしまった。

２日目の東浜へは、行程３時間。北上高地が海になだれ込むリアス式海岸の岬の突端にある。支倉常長が遣欧使節で出帆した月浦（つきのうら）を過ぎる。大津波で道路が寸断され、大型バスは直接着くことができず、車に分乗して行く。児童数23名の東浜小学校はこの日のために登校日とし、わたしたちを迎えてくれた。前日と同様の抑揚の利いたそれでも力のこもる３年連続金賞の声が会場と東浜に届く。「聖しこの夜」「ふるさと」の大合唱。「上を向いて…」のアンコール曲で会場が一体となった。

コンサートが終わり、県北から駆けつけた９つのボランティア団体から支援物資、プレゼントなどの提供があり、つきたての餅やイモ煮などは学生たちへの宮城からのお振舞、おもてなしであった。たくさんのボランティアの支援活動や交流を深める活動に東浜の子どもと手を取り合う学生たちの姿は、まさに教師の卵の面目躍如であった。それにしても多くの有志には頭が下がった。でもそう告げると「何を言うの」と切り返される。ほんとうに温かい心と心で満たされた東浜であり、それに呼応し浜を立つ２台のバスの車中の人も、名残を惜しんで見えなくなるまで手を振ってくれたのであった。

今回の被災地支援コンサートは人間的な思いが、絆が、紡がれなければ宮城までの遠征はなかったろう。大学当局、同窓会本部、合唱団、そして地元有志各位に心からの敬意を申し上げたい。深謝。

東浜小学校でのコンサート
クリスマスツリー

支部設立40周年記念総会を開催

北海道支部長　横山　勲

本年で設立以来40周年を迎えた北海道支部では、さる8月6日に札幌市内のホテルを会場として記念総会・祝賀会を開催しました。

当日は、加藤学長をお招きし、現役の方はもちろんのこと、本学創建時代に短大を卒業された方から本年3月の卒業生まで幅広い年代の参加者で盛会裡に終えることができました。

記念総会の最初に、加藤学長より「都留文科大学の現状」と題してご講演をいただきました。学生が作成したCDで大学の現状を紹介しながら、お祝いの言葉とともに、今後新しい体制を本格的に進めるところにあるので安心してほしい、という頼もしい話で結ばれました。

続いての祝賀会では、英文学科42年卒で海外に活躍の場を広げている谷村彌様ご夫妻による記念演奏が披露されました。独創的なシャクルートという器楽をお二人で奏でる音色は、支部設立40周年の祝いの宴にふさわしく、会場全体は深い喜びの雰囲気に満たされました。

当日は、支部設立40周年記念品として都留市の老舗「すがやさんの八端最中」を出席者全員につけましたが、当地からではなかなか訪れることができない谷村のものだけに、誰もが懐かしさとともに喜びの声をあげていました。

祝賀会の最後には「花のかげ」を、谷村彌様ご夫妻の伴奏付きで全員で4番まで大合唱をして終わりましたが、歳月の深さや重さとともに、次に繋がる良い支部設立40周年でした。

◎平成23年度役員

顧　問	日下　功	会計監査	西多　弘
〃	熊谷　勲	〃	西山　肇
〃	当銀　誠博	事務局長	山本　洋嗣
支部長	横山　勲	事務次長	照山　秀一
副支部長	加藤　佳栄	〃	神野　昌代
〃	杉森　繁樹	事務局員	北田　則章
〃	井口　郁将	〃	桜田　琢
会　計	大花　学	〃	金子　歩
本部理事	横山　勲	本部理事	当銀　誠博

新学長「加藤祐三」先生をお迎えして

岩手県支部長　堀籠智志

全国の同窓会の皆様方には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。3月の東日本大震災に際しましては、大学同窓会や同窓会支部の皆様方から、心温まるお見舞い金や義捐金を賜り、衷心より感謝申し上げます。

さて、私ども岩手県支部では、第12回定例会を平成23年9月23日(金)、盛岡市の「ホテルロイヤル盛岡」において開催いたしました。都留文科大学からは、新学長の加藤祐三先生においでいただきました。今回も県内はもとより、遠くは、神奈川県からの参加者もあり、震災直後の話題で、おおいに盛り上がりました。

加藤先生からは、「都留文科大学の現状」や3つのモットー、「足腰つかえ」「月いち古典」「世界を見据え　持ち場で動かむ」等の講話をいただきました。

最後に、万歳三唱で2年後の再会を約束して散会となりました。今後とも岩手県支部をよろしくお願いいたします。

◎平成23・24年度役員（卒業年度）

顧　問	高橋　一臣(39卒)	宍戸　英明(40卒)
	司東　節子(38卒)	
会　長	堀籠　智志(53卒)	
副会長	千葉　新也(56卒)	小山田　厚(55卒)
事務局長	伊藤　昌俊(元卒)	
事務局員	相墨　純(H2卒)	
理　事	吉田　文明(55卒)	山名　秀樹(55卒)
	加藤　絹代(55卒)	高橋　節夫(56卒)
	滝澤真貴子(H6卒)	安藤　裕之(63卒)
監　事	田鎖　伸子(元卒)	丹　百合子(H5卒)

あっという間に1年が、…

宮城県支部長　千葉龍正

平成23年3月11日、わたしたちの心に刻印が打たれた。以下、支部活動を箇条書きに記します。

- 平成23年2月4日　同窓会県支部22年度総会
- 3月11日午後2時46分大地震、大津波発生。
- 4月16日　同窓会役員会（被災状況の確認。村田敏・慶子夫妻の行方不明判明他。この会の開催予定は4月7日。前夜、激震があり延期された）
- 5月14日　24年度教員採用向第1回研修会
- 5月中旬　被災者への見舞い活動を開始
- 6月11日　同　教員採用向2回研修会
- 7月　2日　同　教員採用向3回研修会
- 7月23日　同窓会役員会（見舞いの件等協議）
- 8月12、16日　被災同窓生へのお見舞い
- 9月　3日　同　教員採用第2次試験向研修会
- 10月23日　同窓会役員会（被災地支援活動の協議、合唱団来県要請）
- 11月5日　第1回合唱団コンサート実行委員会
- 11月26日　第2回　同　実行委員会
- 12月16日　第3回　同　実行委員会
- 12月17日　被災地支援クリスマスコンサート山元町立山下中学校にて実施
- 12月18日　同　石巻市立東浜小学校にて実施
- 平成24年1月7日　第4回　同実行委員会
- 　同　2月4日　県支部23年度総会

中身の濃い支部活動となりました。コンサートの様子は別紙で報告させていただきました。感謝です。

○平成24年度役員

名誉会長	鎌田光彦・小野俊次・鎌田　清
会　長	千葉龍正
副会長	白幡守男・相沢光信・森田宏彦 布施勝久・高橋克巳・菅野俊雄(事務局担当)
事務局	繁田由美・坂本忠厚・松浦和宏 一条良介・及川恵子・清水　進 佐藤圭二
会　計	横山英実・小野寺直美
参　与	及川勝友・半澤登美子・横山貞夫 目黒つねみ・松田美智子・斎藤章夫

東日本大震災からの復興への思い

茨城県支部長　宮内健治

全国の同窓生の皆様には、お元気で御活躍のことと存じます。平成23年3月11日の東日本大震災は、未曾有の災害で茨城県は東北3県についで人的、物的に甚大な被害を受けました。その後の福島原発の原子力災害でも農業など多大な被害を受けました。

復旧が進む鹿行大橋（茨城原行方市）

震災に際して、全国の同窓会支部からお見舞いや励ましをいただきました。改めまして心より感謝と御礼を申し上げます。

3月11日の記憶は今も脳裏から離れません。震災の当時の勤務校（高校）で、予期せぬ激震が襲い、生徒達が先生の誘導により校庭に避難して全員の無事を確認したものの余震の揺れは予想以上の激しさでした。停電や電話の不通もあり状況は不明でしたが、東北地方が震源でM9の甚大な被害が出ていることがラジオでわかりました。その後の時間はかつて経験したことのない濃密で重厚な時間が流れていきました。

茨城支部同総会では、本年度支部総会の予定でしたが、6月に潮来市で同窓会役員会を実施し、本年度予定していた支部総会は次年度以降に延期することとしました。

東日本大震災からの復興と同窓会の皆様の益々の御活躍と御健康を祈念しています。

第3回支部総会を開催して

群馬県支部事務局長　島田実恵子

平成23年8月27日（土）高崎ワシントンホテルプラザにて、3回目の支部総会を開きました。

初めに、4月に行われた大学での理事会の報告や群馬県教員採用試験を受験する学生5名との懇話会のこと、5月に行われた模擬面接試験体験会のこと、大学での総会のことについて報告し、次に役員改選を行いました。新役員は別記の通りです。支部設立の時は無我夢中でしたが、3年目を迎え、どのようにしたら総会への出席者が増えるのかが課題となっております。今回は、3月に卒業したばかりの方が出席して下さり、最近の大学の様子について話していただきました。又、合唱団所属だったということで、懐かしい学生歌「花のかげ」をリードしていただきながらみんなで合唱しました。

県支部の活動内容につきましては、現在のところ会員相互の親睦を深めることを第一に考え、徐々に教員採用試験を受験する学生への支援なども行っていきたいと考えております。

◎群馬県支部役員

支部長	角田　達夫	（昭49）
副支部長	野中　博雄	（昭49）
	齋木　雄造	（昭52）
監　事	原　俊明	（昭59）
	田村　麻路	（昭55）
事務局長	島田実恵子	（昭44）
庶　務	熊川　稔	（昭49）
	金子　朋裕	（平2）
	江原　悠一	（平10）

第3回群馬県支部総会

平成23年度の活動報告

千葉県支部長　野田　純

1　第7回定期総会・懇親会

平成23年2月19日（土）に木更津市内の割烹旅館において盛大に定期総会・懇親会が行われました。

20代から70代のOBが24名集まり、都留の町の思い出を語り合いました。なお、千葉県支部の活性化に献身的にご尽力された林　俊之支部長がご勇退され新役員が選出されました。

〈新役員〉　（卒業年度）

○支部長	野田　純（1971）	
○副支部長	斎藤喜雄（1969）	長田照夫（1970）
	鮫田信夫（1970）	竹内　昭（1971）
	川名和則（1976）	
○事務局長	木村雅浩（1984）	
○事務局次長	武藤輝人（1989）	
○事務局員	石毛洋平（2008）	金子綱基（2008）
	辰馬基倫（2008）	
○幹　事	澤田一哉（1986）	菅野和視（1986）
○顧　問	大塚大吉（1957）	林　俊之（1969）

2　教員採用2次試験対策宿泊学習会

今年度も千葉県教員採用の2次試験のための宿泊学習会を鴨川市で開催しました。遠方から8名の学生が参加しました。

（1）期　日　平成23年8月18日（木）19日（金）
（2）会　場　鴨川市天津小湊公民館
（3）内　容　①模擬授業　②面接のポイント
　　③集団行動実技　④マット運動実技
（4）講　師　千葉県教育庁勤務経験のある方々　3名

東京支部の近況

東京都支部長　松本多加志

全国の同窓生の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

平成23・24年度の都留文科大学同窓会東京支部の役員は、全員が前回に引き続いて担当することを平成23年11月22日の支部総会において承認いただきました。1500余名の会員を抱えます本支部の発展に寄与できるかと役員一同身を引き締めています。同窓会の皆様方のご支援を宜しくお願いいたします。

当日の支部総会並びに懇親会は、大学より、加藤祐三学長、本部から千野文雄会長及び桐井幸雄副会長、そして、輿石東民主党幹事長のご来席をいただき、旧交を温めるとともに、これからの日本の在り方や教育の在り方を語る有意義な会となりました。

特に、本支部では、数年前から本都を受験する学生に対して面接練習会を行っていますが、この研修会に参加した教職経験2～3年の方々が今回の総会に多数参加し、本学卒業40～50年の方々と交わした懇談はこれからの東京都の教育を推進することにつながるものになったことと確信できました。

◎東京都支部役員

○支部長	松本多加志（S44初）		
○副支部長	黒田　賀代（S32初）	長沢　和子（S43国）	
	橋本　秀夫（S44初）		
○庶務	奈良　覚（S45初）	榛原　紀子（S58初）	
	田村　聡（S62初）	西村　学徳（H12初）	
○会計	矢野　優（S47初）	高野　明彦（S49英）	
○会計監査	松田　篤郎（S42初）	泉　宣宏（S47国）	

横浜地区の結成から10年を経て

神奈川県支部横浜地区会長　大石久宜

東日本大震災で被災された同窓の皆様をはじめ、多くの関係の方々に、心よりお見舞い申し上げます。

平成13年11月に神奈川県支部横浜地区が誕生してから、既に10年が経ちました。神奈川には神奈川県支部がありますが、県内には同窓生も多く、全域となると難しい面もありました。そこで、横浜の中で同窓会ができないものかという先輩の皆さんの思いもあり、ようやくできたものです。第1回の総会及び懇親会には、50名近くの同窓生が集まり、親睦を深めることができました。それ以来毎年、学生歌「花のかげ」を合唱したり、都留での思い出を語り合ったりと、時間を忘れた一時が過ぎていきました。

今年度は10月29日（土）に市内のホテルで15名の参加のもと、旧交を温め、親睦を深めることができました。市内には名簿上300名を超える人数（実際は更に多くの人数）の同窓生がおりますが、総会の案内の返信や会への参加状況は決してよい状況ではありません。今後とも声を掛け合って、会の活性化を図っていきたいと考えています。

ところで、横浜から都留までは決して遠い場所ではありませんが、たびたびというわけにもいかず、大学を訪ねたOBの話を伺うなかで、駅ができたこと、下宿が様変わりしたこと、校舎がいくつもできたこと等々、昔の面影も薄らいでいることを聞きました。

この横浜地区の会員も、団塊の世代が退職の時期を迎え、ここ数年は退職される先輩が多くいます。学校現場では大量の定年退職者がある一方、小・中・高で千名近くの採用者がいます。大学そのものや周辺の環境が変わる中、学校現場も新旧の入れ替えが進んでいます。このような変化の時代だからこそ、同窓の絆を強めていきたいと願っています。

〈横浜地区役員〉

会長	大石　久宜		
副会長	塩見　幸代		
理事	深津　米男	古川　幸子	志賀　光雄
	小椋つや子	井川　章弘	南　哲朗
事務局長	森藤　英俊		
副事務局長	丸山　浩二		
庶務	石井　陽子	佐藤　幸子	
会計	阿部　淳子		
監査	佐藤　正弘	津田　忠久	

盛会に県定期総会

山梨県支部長　倉田由和

県唯一の地方紙「山梨日日新聞」に『風林火山』というコラムがある。11月初めに「窓」について取り上げていた。

> 辞書によると「窓」には、「勉強する所」という意味があるそうだ。
>
> 同窓会に出席してきた友人の顔が晴れ晴れとしていた。「あまり気乗りがしない」と言っていたが、笑顔であれこれ話す姿はいつもより快活だ。旧友と再会できた余韻があるのだろう。月日を重ねて大人になれば、失敗することは許されない日々が続く。経済状況が厳しい今は特にそうだろう。そんな毎日の中で、旧友や恩師と過ごす時間は、失敗しても暖かく包まれていたあのころの感触と、今の自分を見つめる“窓”になる。その温かさは今に力をくれる。友人のいつもとは違う笑顔にそう思った。

そんな“窓”に一人でも多くの会員が触れてもらえる機会を企画していきたいと考えている。

平成23年7月31日、本会の総会、県定期総会の盛会という相乗効果を願って、同一会場で1時間前に山梨県総会を開催し、下記役員体制で新年度が出発した。

【山梨県同窓会役員】23～24年度

会長	倉田由和（東山梨）	
副会長	若林四郎（南巨摩）	田中克己（南都留）
事務局長	吉田一郎（東山梨）	
事務局次長	鈴木　茂（東山梨）	望月正行（南巨摩）

「ぎふ清流国体」の年　同窓会支部活動も正念場

岐阜県支部長　山本吉朗

今年の国民体育大会は、岐阜県が開催県です。

冬季大会は、すでに1～2月に終了しましたが、本大会は9月29日から10月9日まで、県下各地の会場で開催されます。また、10月13日からは全国障害者スポーツ大会も開かれます。

海なし県の岐阜県は、「鵜飼いで名高い長良川」に代表される美しい河川環境を誇りとしている県。「ぎふ清流国体」の成功と、全国からの選手や観客受け入れ準備の真っ最中です。国体準備に直接関わったり、ボランティアとして頑張っている都留文大卒業生も多いものと感じています。

しかしながら、二巡目を迎えた国体は、47年前の初回開催時とは、大会環境や県民意識も大きく変化しており、経済・財政状況も厳しさを増している中、県民の関心を高め、大会を盛り上げていくためには大変な苦労があるとも聞きます。

ひるがえって、同窓会岐阜県支部については、平成22年8月に、懸案だった支部発足にはこぎ着けたものの、会員組織はきわめて脆弱で、どうしたら存在感のある活動を行っていけるのか、悩みながら模索している段階です。

平成23年度は、総会の開催を見送って役員会の開催のみとしましたが、平成24年度の総会をどういう形で開催し、会員や在校生に関心をもっていただける活動をどう展開していくのか、役員会でもなかなか結論は出ず、年度末に2回目の打合せ会を開催して再検討することにしております。

平成24年度は、支部活動の正念場になると感じており、他支部の活動に学び、会員のアイデアも募りながら、今後の支部活動の大まかな方向付けだけは、何とか成し遂げていきたいと考えています。

晩秋の金沢文学散歩と総会

石川県支部長　西田良治

晩秋の11月19日、石川県支部では研修会を開催、大学OBでもある山根公氏（白山市在住、江戸時代女流俳人加賀の千代女の研究家で、現在いしかわ観光特使として活躍）を講師に、「金沢文学散歩～浅野川界隈－泉鏡花を中心に～」を実施、文豪鏡花のゆかりの地を訪ね、親睦を深めた。

室生犀星がその名の通り犀川ほとりの雨宝院に幼年時住んでいたのに対し、鏡花は浅野川に縁があった。そこに架かる天神橋と梅ノ橋の間に名作「滝の白糸」像がある。扇子の先から水が噴き上がる水芸ブロンズ像が目を引く。卯辰山の中腹には「はゝこひし夕山櫻峯の松」の句碑がある。九歳で死別した母への切ない思いが偲ばれる。また、この近くには寺院も多く蓮昌寺は「縷紅新草」の舞台、全性寺は母方中田家の菩提寺、善妙寺には鏡花ゆかりの摩耶夫人像がある。梅ノ橋を渡った所にある徳田秋聲記念館近くの旧東茶屋街（「由縁の女」の舞台）は、近年往時の姿が再現され、ここだけタイムスリップしたような感になる。県外からの観光客の多いのもうなずける。

夕方からは、市内のホテルに場所を移し、総会を開催、その後一献かたむけながら旧交を温めた。互いに近況を聞くなど話は尽きない。最後に全員で「花のかげ」を合唱し、遠く都留を思いつつ、研修会と総会の幕を閉じた。

支部役員

会　長	西田　良治	（昭50国）
副会長	下出　　貴	（昭51初）
〃	谷内　誠一	（昭50英）
事務局長	徳野　正一	（昭46初）
会　計	光岡　和道	（昭46国）

絆

福井県支部長　小柳義夫

「お久しぶり」「元気だった」という声が弾む受付。本年度の県支部総会「城山会」を11月5日に漆器、めがね、レッサーパンダなどで有名な鯖江市で開催し、多くの友が集まり、親交を深めました。

2名の新会員紹介や平成24年度福井県教員採用試験に見事合格したという嬉しい報告等を含めた総会に引き続き、女性県会議員として今春より活躍されている同窓生よりお話を伺いました。同氏は防災関係に教員時代から熱心に取り組まれ、県議会でもその面で活躍されています。福井県は有数の原発立地県であり、東日本大震災や福島原発事故の現状等を考察した結果をもとに福井県での防災関係について熱く語られました。ややもすると他人事と考えがちな原発や防災について改めて考える機会を得ることができました。今後の同氏の活躍に参加者全員でエールを送りました。

懇親会では、世代を越え、それぞれの近況を思い出話を楽しみ、余興を交えながら交流を深めました。

「都留文科大学」という絆で結ばれた仲間の集まり「城山会」には、それぞれがふるさとに戻り、旧交を深めるような温かさを感じます。さらに会員の絆を強くするために、県内各地で開催し、新会員の加入増、学生への支援そして一人でも多く参加できるような「城山会」をめざしていきたいと思います。

〈平成23・24年度「城山会」役員〉

会　長	小柳　義夫	（昭49卒）
副会長	橋本　正実	（昭49卒）
	西出　健一	（昭51卒）
監　事	松浦　悦子	（昭49卒）
	杉浦　敏隆	（昭53卒）

県支部と名古屋地域の活動

愛知県支部事務局長　平手孝幸

1　県支部の活動

本県では、県内を８地域に分けて、年１回地域幹事会を開いている。ここでは、それぞれの地域の活動報告と共に情報交換をしながら連携を深めている。

今回は、参与（校長または校長OB）も含め、21名の参加があり、結束を深めることができた。

〈平成24年度の県支部組織〉

支部長	岩重佳子（名古屋　51英）	
事務局長	平手孝幸（名古屋　55初）	
地域幹事	名古屋	竹内義信（58初）
	尾張	右高秀美（51英）
	海部	平野　豊（56初）
	知多	山本　肇（56国）
	西三河	平岩康彦（58初）
	豊田・みよし	杉浦俊孝（58英）
	東三河	雪山忠宏（52初）
	新城設楽	林　亨（51初）

第７回県地域幹事会

12月23日（金）名鉄犬山ホテルにて

2　名古屋地域の活動

＝平成23年度の活動＝（予定を含む）

４月…異動の確認、役員確定
５月…第１回役員会、区代表確認、名簿作成
７月…若手懇話会、第２回役員会、会報発行①
９～11月…ブロック別懇親会
12月…第３回役員会、会報発行②
１月…総会並びに退職者慰労会
３月…第４回役員会、会報発行③

※会報を年間３回発行し情報を発信している

時は経てぞ、思いは都留の地

兵庫県支部理事　辻奥　彰

東日本大震災から３か月、被災地の復興への力強い歩みが軌道に乗ることを願い、また、同窓の友への思いを胸に兵庫県人会の総会・懇親会に集いました。

丹波地方の里山にはいつもと変わらない新緑に抱かれた風景がありました。今回は日本六古窯の一つ丹波焼（立杭焼）の里、篠山市今田町で開催しました。県下から17名の参加を得ました。

平成17年開館の兵庫陶芸美術館に集合し、「ひょうご古陶遍歴」展覧会を学芸員の説明を聞きながら鑑賞しました。南から淡路の珉平焼、姫路の東山焼、三田の三田焼、篠山の王地山焼・丹波焼、そして北の但馬の出石焼とそれぞれの古陶との出会い興味深く楽しみました。

そして、総会。総会では一連の議事を確認し、大学の現状報告を「2012大学案内」を通して懐かしさと発展する母校の展望に心動かしました。

昼を少し過ぎて、『ぬくもりの郷こんだ』で、懇親会を持ちました。それぞれの参加者の近況の言葉に合いの手を入れながら、過ぎ去りし青春のページを紐解く一時となりました。「山一会館」「城山温泉」「なかごみ」「おふくろ」等々の固有名詞は思い出への道標です。大学の４年間が時は違えど共有できる「都留の地」は同窓生にとっては人生の聖地だと確認できました。

楽しい語り合いもいつしか時が経ち、次回、明石での開催を確認し、家路へと就きました。

追伸　卒業して40年。丹波篠山の黒豆の枝豆（とってもおいしい）を百歳の下宿の大家さんに送ったら今年も懐かしい「信玄餅」が届きました。

確かな足跡を

広島県支部会長　小谷桂司

師走来て　兎が如く　飛び跳ねし
月食仰ぎ　再生祈願

うさぎ年の今年。３月11日のことを始め、有りすぎるほどいろいろなことがあったような気がしてなりません。

12月９日。月食を見つゝ、私なりに一年を振り返り、時の過ぎるがまゝ、天空を仰いでいました。

県人会としては、会員同士の情報が共有できるようにと会員名簿の再整理（特に近年の卒業生・同窓生の住所や職場が不明瞭で困っています）県の会報「都留」の発刊。現職の先生方の公開研究会の情報提供など、会員同士の声かけが出来ないか。先輩・後輩・同僚が情報交換の基、支え合いができないか。先輩が学んで来た事を「伝える」場を持つことができないか。少しずつですが、「人の絆」から「確かな足跡を」と願いつゝ、進めているところです。

平成24年度役員

顧問	金久　睦彦	松田　昌紀	中西　正一
会長	小谷　桂司		
副会長	表　善彦	目崎　仁志	
事務局長	（兼：会計）	二宮　正	
理事	佐島千賀子	田丸　正実	宮本　仁
	山城　義明	猪原　憲三	本宮　達弘
	土橋　義信	三永　政幸	田中　春樹
	池田　桂子	島本　智子	
監査役	三井　昌宏	白石　隆	
幹事	山中　護	田辺　恵子	五葉木輝正
	兼丸　裕子	安藤　正弘	奥窪　尚昭
	末房　朋子	杉山　幸子	松浦　富枝

鳥取県支部総会は毎年「11月23日」に

鳥取県支部長　藤田　修

晩秋の山陰地方には珍しい、穏やかな陽光が降り注ぐ平成23年11月23日(水)、県中部に位置する倉吉市内の「ホテルセントパレス倉吉」に於いて、第6回鳥取県支部総会を開催しました。鳥取県支部は、初代支部長である藤原茂雄先生（昭40）のご尽力、ご指導のもと、平成14年2月24日に設立総会を開催し、現在に至っています。その間、諸般の事情により、総会を開催できなかった年もありますが、設立年も含めて10年目、6回目の総会を迎えました。

総会では、飛村淳前支部長（昭43）から、都留文科大学報や大学案内、大学紹介DVDなどにより、大学の現況について説明をしていただきました。参加者の中には、卒業後に一度も都留を訪れていない人もあり、「富士急行都留文科大学前駅」や「山梨リニア実験線」はもちろん、大学施設の充実や、大学周辺の商業集積、学生マンション群に驚嘆の声を挙げていました。

総会後の懇親会では、恒例の部活動の話や下宿のこと、ゼミやアルバイトの話題に花が咲きました。また、各方面で活躍中の同窓生の話でも大いに盛り上がりました。

さて、標題にも書きましたが、鳥取県支部ではより多くの同窓生に集っていただくよう、総会の開催日を固定することにしました。

鳥取県支部会員の皆さん、毎年11月23日は、県中部でお会いしましょう！

◎平成24・25年度支部役員

会　長	藤田　修	(昭50)
副会長	金田吉治郎	(昭46)
〃	山本　英明	(昭50)
監　事	小山　敏夫	(昭47)
〃	井上美也子	(昭55)
事務局長	小坪　宏成	(平8)
庶　務	西田　智貴	(昭61)
〃	谷口　俊則	(平4)

支部結成から8年目の岡山

岡山県支部長　原田直樹

平成15年8月に岡山県支部が誕生してから、早いもので9年目を迎えました。

当初は、8月第3日曜日に支部総会を開催していましたが、平成17年度(第3回)支部総会からは2月11日(建国記念日の日)に岡山市内で開催するようになり、平成23年度もその予定で、ただいま準備を進めているところです。

さて、平成23年度の支部総会の様子を写真でお知らせしたいのですが、原稿締め切り後の開催なので、前年度のものをご覧ください。

そういうわけで、平成22年度の支部総会について報告します。平成22年度から会場を岡山市内の公立学校共済施設「ピュアリティまきび」に変更しました。岡山駅に近く、集合に好都合です。8名が集い、懇親を深めました。支部の発展をめざして連絡体制の徹底を図り、地域での懇親をバネに支部総会に集まりやすい体制をとの御意見を頂戴しました。

多数の同窓生を輩出している岡山県支部としては、今後連絡を密にして集いの輪を広げたいと思います。年に一度の支部総会には、ぜひ懐かしいお顔をお見せください。この場をお借りして皆様の御参加を呼びかけさせていただきます。

岡山県支部役員

支部長	原田　直樹
副支部長	菱川　徹
理　事	岩城　孝志、坂上　信二、中野　元雄 土師　康生
監　査	川口與志継、岩崎　美幸
事務局	岩城　孝志、岡本　智江

四万十川のほとりで

高知県支部長　清岡典代

高知県は、東は室戸岬、西は足摺岬と大きく長く弧を描いたような地形で、南は太平洋に面し北は四国山地に阻まれています。東西に距離がありますので、ほぼ隔年で高知市と四万十市方面で同窓会を行っております。今年度は8月6日（土）四万十川河口の四万十市（旧中村市）で9回目の支部総会を行いました。

私は、都留文科大学を卒業してから東京で35年間教職を勤め、4年前に夫の故郷、高知市にIターンしてきました。（それ以来、同窓会のメンバーに加えさせていただいております。夫も都留大卒・自由業と柚子栽培）その間に室戸は2回ほど、四万十周辺は数回来ていますが、中村方面には初めて訪れました。暑い夏に元気いっぱいの高知県ですが四万十はまさしく夏を謳歌する地域のように感じました。

今年は昨年より1名多い7名が総会に参加しました。総会はいつも「花のかげ」の合唱からスタートします。1年に1度この歌を歌うのも乙なものです。その後清岡会長の挨拶、参加者の近況報告そして22年度の事業報告・会計決算報告及び承認・23年度の事業計画と予算案が承認されました。また、今年度の役員も無事選出され、楽しい懇親会へと続きました。

高知県在住の卒業生の活躍ぶり、都留での下宿生活の話に花が咲きました。また、新たな卒業生の消息が分かり、次年度の参加者も増えそうでとても楽しみです。そのうえ、毎年の支部助成金や会費等の積み立てで、支部財政も豊かとなり、今後研修旅行等が計画されそうです。

都留文科大学と高知県支部の更なる発展を願いつつ、支部総会の報告といたします。　（文責　和田　恵）

定年退職を機に

熊本県支部長　永田好文

昨年11月、2年に一度の県支部総会で承認を得て支部長職を拝命しました。責任の重さを感じながらも、県支部の更なる盛会と4年間お世話になった大学への恩返しが少しでもできるよう誠心誠意尽力する所存であります。早速本年4月に開催された理事会に出席させていただきました。支部活性化のための各支部の取組等、情報交換が随分参考になりました。今後に活かしたいと思います。

会終了後、ひたすら向かったのが弓道場です。と申しますのも、私は大学4年間、どちらかといいますと勉学よりも弓道漬けの毎日でした。部活動を通して人生の基盤となる数多くの貴重な体験と学びの習得、それに体力を培うことができました。そしてこのことがその後の教職生活の支えとなり、自信を持って38年間の職責を全うすることができました。道場へのお礼と現在の学生さんの部活動への想いを確かめたかったのですが、当時の道場はなくなり、別の場所で立派な道場に様変わりしていました。また、日曜日でしたので誰もおらず、とても残念でした。しばらくその場に座り安土を眺めていると、心は40年前にタイムスリップしていました。1・2年生の頃は下谷にあった町道場で、先輩方や一般の方々に教えを請いながらの練習でしたが、住居のある十日市場からの徒歩往復は結構大変でした。3年生のとき、楽山の下、月見草がきれいに咲きほこる土手の上に弓道場を建てさせていただくことになりましたが、予算は材料費のみ。部員一丸となり講義の合間を縫って道場づくりに励みました。懇親丁寧に建築のノウハウをご指導いただいた関係者の方々のお顔が今でも鮮明に思い出されます。やっとの思いで手作り道場が完成し、卒業された先輩方を招いての落成式は盛会で、感無量でした。

「いつかきっとまた弓道を」の思いを抱き続け、この3月で定年退職になった今、38年ぶりに練習を再開しました。よくしたもので、体は覚えているものです。体力も感覚も蘇り、学生時代に使っていた弓を何とか弾きこなせるまでになりました。都留で過ごした青春時代の淡い思い出に浸りながら、生きがいの一つとして道場通いを楽しんでいます。

「ミニ会」最終回を終えて

沖縄県支部長　金城宏安

以前にもご紹介した事がありますが都留文科大学の前身「都留短期大学」初等教育科　昭和32年入学から「ミニ会」と名づけられ昭和34年3月卒業、第4期生の有志が集まって出来た親睦会が「ミニ会」です。

ご存知のとおり都留文科大学は昭和28年に山梨県立臨時教員養成所が設立、昭和30年市立都留短期大学が創立、初等教育科50名、商経科50名でスタート、その短期大学時代の4期生が私たちでした。入学した昭和32年から聴講生63名も入学して来て、教職につくには欠かせないピアノの練習には順番待ちで深夜でかけていく苦い体験も、今となっては青春の思い出のひとつになっています。大学設立間もないこともあって設備も充分でなく、色んな面で思い出を共有した同期生が何年かに1回集まって、昔話や現況を話し合い、親睦を深めると云うのがこの「ミニ会」でした。

第1回（昭和53年）8月、神奈川県横浜中華街を初めとして北は青森県から南は沖縄県まで、足かけ32年間にわたって第20回まで関係者の方々のご尽力で無事終えた事を心からお礼と感謝を申し上げます。

初めの頃は仕事も現役で子育ての忙しい方が多くて参加者も少なかった様ですが徐々に参加者も多くなり1泊2日間の短い時間をお互いの絆を深めるべく毎回楽しい集まりでした。私も6回程参加させて頂きましたが「ミニ会」には決まりもなく任意の会でしたので、各人の仕事・子育て・体調と云う様に年月と共に話題が変化しているようでした。

最後に、青春時代わずか2年間だけでしたが心のふる里とも言える都留市谷村での想い出は今も深く心に刻まれ都留文科大学の尚一層の飛躍発展を祈りつつ平成22年10月山梨県都留市東桂、渓山荘での第20回の「ミニ会」最終回、ご苦労様でした。

写真（ミニ会）
2005年（平成17年）第15回
鹿児島県　ホテル　ヴェルビューかごしま

昭和44年度卒 Mini同窓会開催

発起人　島田（牧野）実恵子

最近、同窓会理事会や総会で大学に行く機会が増え昭和44年度卒の仲間に会うようになりました。そこで、そろそろ定年を過ぎた懐かしい仲間達に会いたいという話が出て、計画を進めました。

千葉県支部長（当時）林　　俊之 090-2228-0110
東京都支部長　　松本多加志 090-7400-5227
静岡県支部庶務　　大場　孝純 090-4235-6714

上記の3名の方々に発起人をお願いし、今回はまず知人が知人を誘ってのMini同窓会にしようということで呼びかけ、7月31日（日）大学の総会に合わせて、総会終了後の午後6時から都留市下谷の健康ランド＆ホテル「スターらんど」で開催しました。当日は、初めて大学の総会に参加したという人や大分変わった都留の街・大学の様子に感動した人もいたようです。スターらんどで午後10時過ぎまでたっぷり飲（呑）んだり食べたりおしゃべりしたのですが、さらに思い出の都留の街へ、カラオケに出かけた元気な仲間がいたことも付け加えます（笑）。

今回参加して下さったみなさん（敬称略）
荒池憲一、大林正樹、小林洋一、斎藤喜雄、
佐藤賢一、鷹木稔臣、高橋　強、辰　忠司、
多田（佐野）満男、手塚益雄、宮崎　喬、安田和夫、
綾部（渋谷）明子、志村（山岸）正子、
田中（福良）美恵子、中島（長尾）とみ子、
安田（安田）和世、山本（清水）陽子　　以上

知っていれば参加したのにという皆さんには本当に申し訳ございません。幹事まで是非ご連絡下さい。二日目は、現千葉県支部長のご実家（笛吹市一宮町）の桃園で桃狩りを楽しみ、Mini同窓会を終えました。

体育会

平成23年度体育会
会長　住吉琢磨

春陽の候、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本年度、体育会ではスローガンに「無限」を掲げ各部の繋がりを大事にしながら、体育会の発展と充実を目指して日々活動しております。

今年は、関東甲信越大会が東日本大震災の影響でなくなりましたが、今年で38回を数える鶴鷹祭は例年以上に盛り上がりました。結果的に都留文科大学は高崎経済大学に11勝13敗という僅差で敗れましたが、スポーツを通して交友を深めるという点においては大成功であったと感じております。これは現役の選手の力だけではなく、陰で支えて下さっているOB、OGの先輩方のおかげです。

今後も、都留文科大学体育会はスポーツを通して大学を盛り上げていくよう努力し、諸先輩方に良い報告ができるように精進していきたいと思います。重ねてご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

鶴　鷹　祭

文化会

平成23年度文化会
会長　加々美駿也

春暖の候、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては、ますますのご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成23年度におきましては、文化会所属である合唱団が、11月19日（土）に青森市文化会館大ホールで行われました、「第64回全日本合唱コンクール全国大会」におきまして、前年度、前々年度に引き続き見事金賞を受賞し、大変優秀な成績を収めることができました。これは現役の力の他、OB、OGの先輩方のお力添えの賜物と、深くお礼を申し上げます。

また、管弦楽団・吹奏楽団などの音楽団体の定期演奏会や写真部、美術部などの展覧会など、積極的に活動を行なっています。

文化会本部におきましては、平成24年度に向けて引継ぎが完了し、新体制となりました。文化会所属の各団体についても新体制にむけて、諸先輩方が築いてくださった伝統を引き継ぎ、各団体のさらなる発展を目標に、積極的に活動を行いたいと思います。

今後とも、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方には、ご指導とご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

クラブ・サークル発表会（桂川祭にて）

第64回全日本合唱コンクール全国大会

平成23年度　都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数
1	北海道	586	13	東京都	1,307	25	滋賀県	99	37	香川県	141
2	青森県	230	14	神奈川県	1,284	26	京都府	237	38	愛媛県	253
3	岩手県	473	15	新潟県	586	27	大阪府	495	39	高知県	71
4	宮城県	575	16	富山県	545	28	兵庫県	815	40	福岡県	236
5	秋田県	219	17	石川県	550	29	奈良県	94	41	佐賀県	78
6	山形県	301	18	福井県	463	30	和歌山県	179	42	長崎県	192
7	福島県	708	19	山梨県	3,334	31	鳥取県	158	43	熊本県	185
8	茨城県	400	20	長野県	926	32	島根県	220	44	大分県	105
9	栃木県	434	21	岐阜県	486	33	岡山県	363	45	宮崎県	148
10	群馬県	303	22	静岡県	1,257	34	広島県	481	46	鹿児島県	312
11	埼玉県	549	23	愛知県	1,152	35	山口県	179	47	沖縄県	175
12	千葉県	579	24	三重県	356	36	徳島県	337	48	外国、不明等	6,388
										合　計	29,544

支部設立済都道府県

平成23年4月1日現在

氏名・住所等変更届はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAXで、お願いします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須項目及び変更内容を、いずれかの方法によりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合、はがきは自己負担でお願いします。

1　**ホームページ**

(1)本学ホームページより［卒業生の方へ］→［同窓会］→［同窓会氏名・住所等変更届け］にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。
都留文科大学ホームページURL：**http://www.tsuru.ac.jp**

(2)ホームページ上にて氏名・住所等変更届けを行う際には、次のユーザーID並びにパスワードが必要となります。
ユーザーID：tsurubun-u パスワード：t10016（どちらも半角英数）※同窓会会員以外による不正使用がないよう、ユーザーID・パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。

2　**E-mailにて送信**
E-mail：dousokai@tsuru.ac.jp

3　**FAX・郵送**
〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1 都留文科大学同窓会　宛
TEL 0554-43-4341　内線206　FAX 0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名（フリガナ）／旧姓 卒業年・学科	現住所／電話番号 勤務先名 勤務先住所／電話番号 勤務先の役職

※住所移転等で同窓会報がお手元に届かない場合がありましたらご連絡ください。

平成22年度都留文科大学同窓会会計収支決算書

◆収入の部　（単位：円）

項目	当初予算額	補正予算額	予算現額	収入済額	備考
入会金	4,030,000	0	4,030,000	4,030,000	806人×5,000円＝4,030,000円
終身会費	8,060,000	0	8,060,000	8,060,000	806人×10,000円＝8,060,000円
繰越金	3,192,993	0	3,192,993	3,192,993	平成21年度繰越金
雑入	25,007	0	25,007	206,455	理事会懇親会御祝儀、預金利息、50周年記念誌販売（5冊）
収入合計	15,308,000	0	15,308,000	15,489,448	

◆支出の部

項目	当初予算額	補正予算額	予算現額	支出済額	備考
事業費	7,145,000	0	7,145,000	5,845,771	
会報発行費	2,700,000	0	2,700,000	2,204,748	同窓会報第29号（平成22年度発行）
支部助成金	3,230,000	0	3,230,000	2,890,000	山梨　東京　神奈川　愛知　静岡　600,000円（@120,000円×5支部） 兵庫　110,000円（@110,000円×1支部） 北海道　岩手　宮城　千葉　富山　石川　福井　大阪　広島　900,000円（@100,000円×9支部） 山形　茨城　三重　岡山　愛媛　徳島　鹿児島　群馬　島根　810,000円（@90,000円×9支部） 鳥取　長崎　熊本　宮崎　沖縄　400,000円（@80,000円×5支部） 高知　70,000円（@70,000円×1支部）
支部設立準備金	450,000	0	450,000	150,000	岐阜県支部設立助成金
新入学祝費	500,000	0	500,000	488,523	
支部旗作成費	165,000	0	165,000	52,500	岐阜県支部旗作成費
教員採用試験学習会費	100,000	0	100,000	60,000	宮城　富山　東京　千葉　大阪　愛知　60,000円（@10,000円×6支部）
会議費	1,500,000	0	1,500,000	1,364,625	
総会費	0	0	0	0	
理事会費等	1,500,000	0	1,500,000	1,364,625	
同窓会本部費	1,830,000	0	1,830,000	1,376,837	
事務費	100,000	0	100,000	38,152	
運営費	1,500,000	0	1,500,000	1,158,685	
慶弔費	120,000	0	120,000	70,000	
本部役員活動費	110,000	0	110,000	110,000	平成22年度役員報酬
積立金	4,600,000	0	4,600,000	4,600,000	財政調整基金600,000円、大学創立記念事業基金4,000,000円
予備費	233,000	0	233,000	0	
支出合計	15,308,000	0	15,308,000	13,187,233	

（収入済額）　（支出済額）　（収入・支出差引残高）
￥15,489,448　－　￥13,187,233　＝　￥2,302,215

◎基金の増減

◆平成21年度末積立現在高	29,699,085円
◆平成22年度中積立金（財政調整基金、大学創立記念事業基金）	4,600,000円
計	34,299,085円

基金内訳

財政調整基金	9,002,425円
大学創立記念事業基金	25,296,660円
計	34,299,085円

東日本大震災で被災された方々につきましては心よりお見舞い申し上げます。

都留文科大学合唱団被災地支援クリスマスコンサート

大学を午前６時に出発

１日目のレセプションの様子

本年度同窓会総会で提起された東日本大震災被災地への学生ボランティア派遣として、全日本合唱コンクール全国大会３年連続金賞の本学合唱団が宮城県山元町山下中学校・石巻市立東浜小学校を訪れ、心の復興を目的に日本一の美しい歌声を披露し、被災した児童・生徒や地域の方々を励ましました。宮城県支部には、被災地支援クリスマスコンサート実現のために、３回の実行委員会、綿密な計画の作成、会場準備、コンサート運営、合唱団宿泊所手配、昼食・朝食の準備等、支部の総力を挙げて取り組んで頂きました。合唱団の歌声は、復興への祈りとなり、被災者の励ましと心の安らぎとなりました。特に、東浜小学校地区は、津波で被災した家屋の惨状そのままの所もあり、元気を出して頂く思いで、コーラスの他、衣類・野菜・米等のプレゼント、餅つき大会、昼食大会（おにぎり・芋煮・焼き芋・焼き鳥等）、喫茶・一杯コーナー、綱引き、神楽、映画バス等を準備され、心温まる被災地支援活動になりました。合唱団や指揮者の清水雅彦教授には、大学を午前６時に出発し、バスで往復12時間乗車し大学に翌日午後11時に到着する強行日程で参加していただきました。宮城県支部千葉龍正支部長より特別に寄稿して頂いた『合唱団の歌声は被災地を包んだ』を６面に掲載いたしました。

全国の同窓会会員の方々には、コンサートの様子を写真でお知らせ致します。

都留市の春夏秋冬

支部をつなぐ同窓会電子メールシステムが開始

平成23年８月「同窓会の35都道府県支部の組織間や、本部との情報共有の強化を図る」ことを目的とした電子メールシステムの運用が開始されました。